

報道関係者 各位

令和 7 年12月23日

【照会先】

埼玉労働局職業安定部職業対策課

職業対策課長 新井 一好

職業対策課長補佐 高德 洋輔

高齢者対策担当官 岩田 宏之

( 電 話 ) 048(600)6209

### 令和 7 年「高年齢者雇用状況等報告」の集計結果を公表します

埼玉労働局(局長 片淵 仁文)では、このたび、令和 7 年「高年齢者雇用状況等報告」(6 月 1 日現在)の集計結果を取りまとめましたので、公表します。

「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律(昭和46年法律第68号。以下「高年齢者雇用安定法」という。)」では、事業主が雇用する高年齢者の65歳までの安定した雇用の確保を目的として、「定年制の廃止」や「定年の引上げ」、「継続雇用制度の導入」のいずれかの措置(高年齢者雇用確保措置)を講じることを、事業主に義務付けています。

また、70歳までの就業機会の確保を目的として、「定年制の廃止」や「定年の引上げ」、「継続雇用制度の導入」という雇用による措置や、「業務委託契約を締結する制度の導入」、「社会貢献事業に従事できる制度の導入」という雇用以外の措置(創業支援等措置)を講じ、70歳までの就業機会を確保すること(高年齢者就業確保措置)を、事業主の努力義務としています。

今回の集計結果は、常時雇用する労働者が21人以上の企業8,626社からの報告に基づき、このような高年齢者の雇用等に関する措置について、令和 7 年 6 月 1 日時点での企業における実施状況等をまとめたものです※。

埼玉労働局では、今後も、生涯現役社会の実現に向けて、これらの措置を実施していない企業に対して、埼玉労働局、ハローワークによる必要な指導や助言を実施してまいります。

※集計結果の主なポイントや詳細は次ページ以降をご参照ください。

【集計結果の主なポイント】 ※ [ ] は対前年差

## I 65歳までの高年齢者雇用確保措置の実施状況

(8ページ表1、9ページ表3-1)

65歳までの高年齢者雇用確保措置を実施済みの企業は、99.9% [変動なし]

- ・ 中小企業では99.9% [変動なし]、大企業では100.0% [変動なし]
- ・ 高年齢者雇用確保措置の措置内容別の内訳は、
  - 「定年制の廃止」により実施している企業は、4.5% [0.3ポイント増加]
  - 「定年の引上げ」により実施している企業は、33.8% [1.9ポイント増加]
  - 「継続雇用制度の導入」により実施している企業は、61.7% [2.2ポイント減少]

## II 70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況 (10ページ表4-1)

70歳までの高年齢者就業確保措置を実施済みの企業は、38.9% [2.2ポイント増加]

- ・ 中小企業では39.0% [2.4ポイント増加]、大企業では38.2% [1.1ポイント増加]

## III 企業における定年制の状況 (11ページ表5)

65歳以上定年企業（定年制の廃止企業を含む）は、38.3% [2.2ポイント増加]

※本集計では、従業員21人～300人規模を「中小企業」、301人以上規模を「大企業」としている。

※端数処理について

本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、それにより0%となる数値については小数点第2位以下を切り上げ、100%となる数値については小数点第2位以下を切り捨てとしている数値がある。

※本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳の積み上げが合計と一致しない場合がある。

### <集計対象>

■ 県内の常時雇用する労働者が21人以上の企業:8,626社(報告書用紙送付企業数10,013社)

- ・ 中小企業 (21～300人規模) : 8,144 社
- ・ 大企業 (301人以上規模) : 482 社

## 1 65歳までの高年齢者雇用確保措置の実施状況

### (1) 65歳までの高年齢者雇用確保措置の実施状況（8 ページ表 1）

高年齢者雇用確保措置(以下「雇用確保措置」<sup>注1</sup>という。)を実施済みの企業(8,625社)は、報告した企業全体の99.9%[変動なし]で、中小企業では99.9%[変動なし]、大企業では100.0%[変動なし]であった。

#### 注1 雇用確保措置

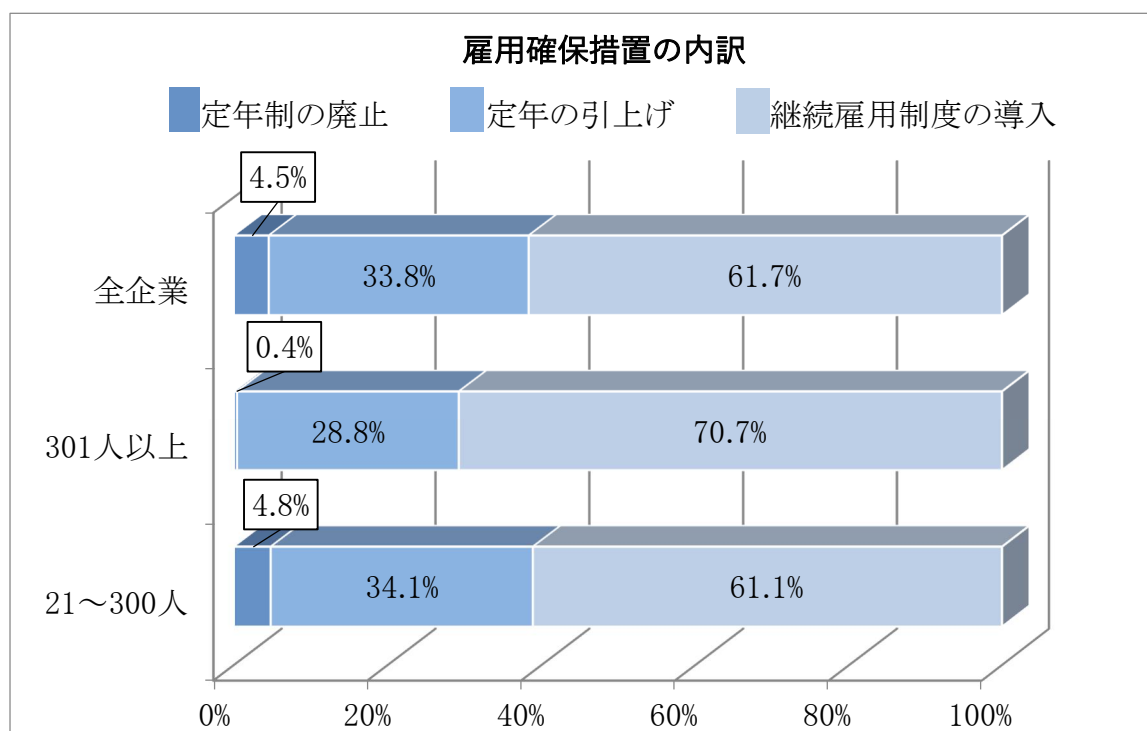
高年齢者雇用安定法第9条第1項に基づき、定年を65歳未満に定めている事業主は、雇用する高年齢者の65歳までの安定した雇用を確保するため、以下のいずれかの措置を講じなければならない。

① 定年制の廃止、②定年の引上げ、③継続雇用制度の導入<sup>※</sup>

※ 継続雇用制度とは、現に雇用している高年齢者が希望するときは、当該高年齢者をその定年後も引き続いて雇用する制度であり、平成24年度の法改正により、平成25年度以降、制度の適用者は原則として「希望者全員」を対象としている。ただし、平成24年度までに労使協定により継続雇用制度の対象者を限定する基準を定めていた企業においては、当該基準を適用できる年齢を65歳まで段階的に引き上げる経過措置が令和7年3月31日まで適用されていた。本経過措置は令和7年3月31日をもって終了し、令和7年度からは、「希望者全員」の65歳までの雇用確保について全面的な義務付けがなされている。

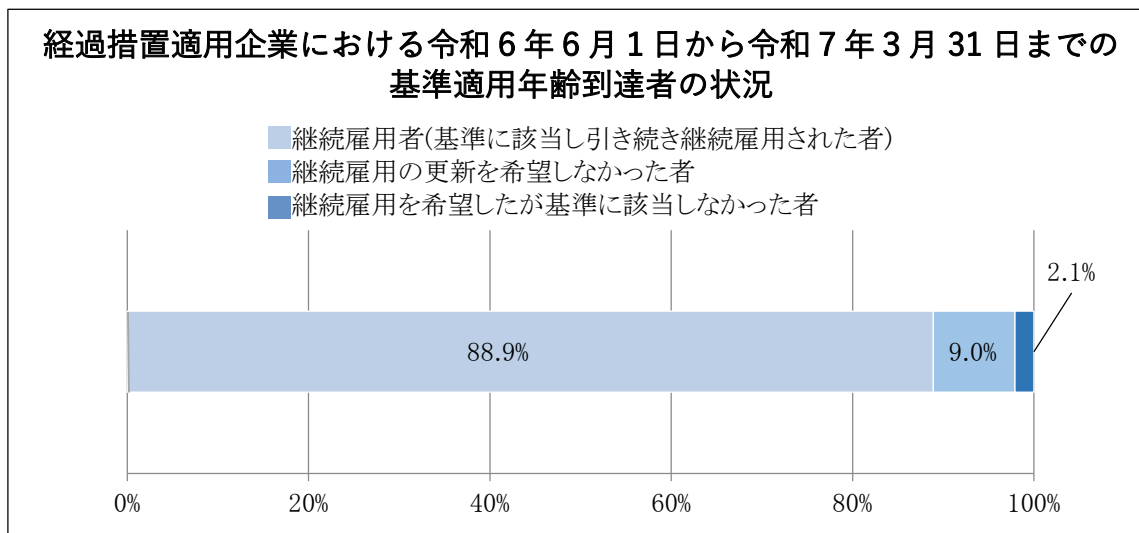
### (2) 雇用確保措置実施済企業における措置内容の内訳（9 ページ表 3－1）

雇用確保措置を実施済みの企業(8,625社)について、雇用確保措置の措置内容別に見ると、定年制の廃止(392社)は4.5%[0.3ポイント増加]、定年の引上げ(2,915社)は33.8%[1.9ポイント増加]、継続雇用制度の導入(5,318社)は61.7%[2.2ポイント減少]であった。



(参考) 経過措置適用企業における令和6年6月1日から令和7年3月31日までの基準適用年齢到達者の状況 (11 ページ表6)

上記1(1)の注1※に記載する経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準があった企業において、令和6年6月1日から令和7年3月31日までに、基準を適用できる年齢(64歳)に到達した者(478人)のうち、基準に該当し引き続き継続雇用された者は88.9%[4.8ポイント減少]、継続雇用の更新を希望しなかった者は9.0%[3.5ポイント増加]、継続雇用を希望したが基準に該当せずに継続雇用が終了した者は2.1%[1.4ポイント増加]であった。



## 2 70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況 (10 ページ表4-1)

### (1) 70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況

高年齢者就業確保措置(以下「就業確保措置」<sup>注2</sup>という。)を実施済みの企業(3,357社)は、報告した企業全体の38.9%[2.2ポイント増加]で、中小企業では39.0%[2.4ポイント増加]、大企業では38.2%[1.1ポイント増加]であった。

### (2) 就業確保措置実施済企業における措置内容の内訳

就業確保措置を実施済みの企業(3,357社)について、就業確保措置の措置内容別に見ると、報告した企業全体のうち、定年制の廃止(392社)は4.5%[0.3ポイント増加]、定年の引上げ(311社)は3.6%[0.1ポイント増加]、継続雇用制度の導入(2,650社)は30.7%[1.8ポイント増加]、創業支援等措置<sup>注3</sup>の導入(4社)は0.1%[変動なし]であった。

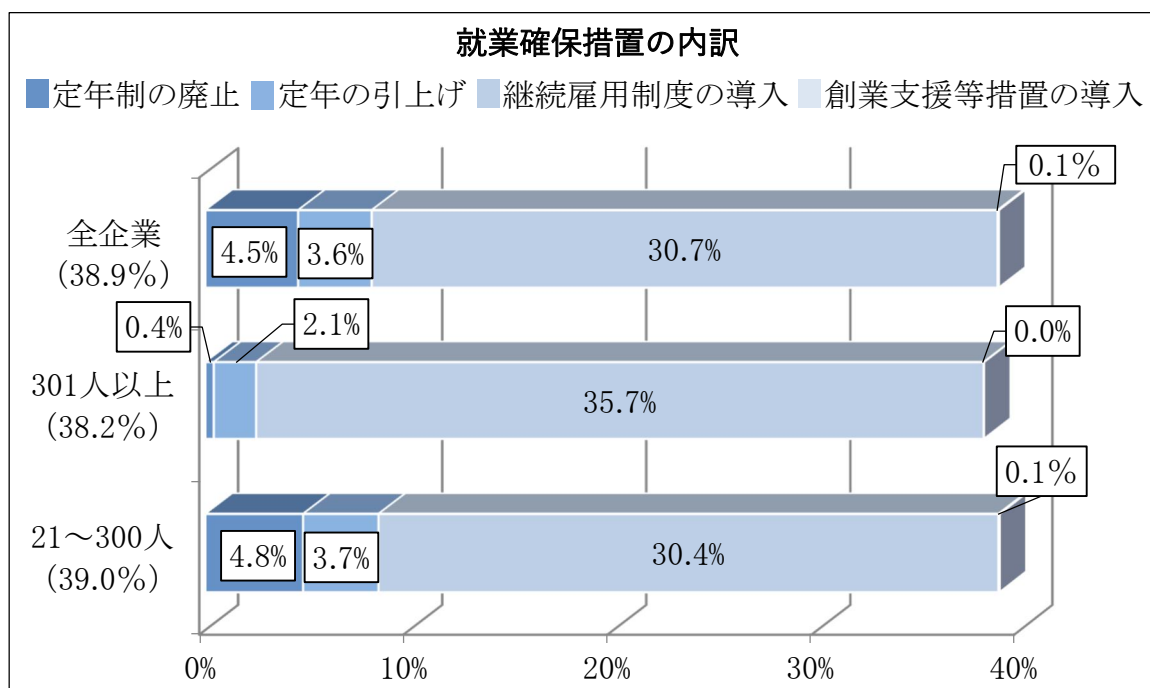
#### 注2 就業確保措置

高年齢者雇用安定法第10条の2に基づき、定年を65歳以上70歳未満に定めている事業主または65歳までの継続雇用制度(70歳以上まで引き続き雇用する制度を除く。)を導入している事業主は、その雇用する高年齢者について、次に掲げるいずれかの措置を講ずることにより、65歳から70歳までの就業機会を確保するよう努めなければならない。

- ①定年制の廃止、②定年の引上げ、③継続雇用制度の導入、④業務委託契約を締結する制度の導入、⑤社会貢献事業に従事できる制度の導入(事業主が自ら実施する社会貢献事業または事業主が委託、出資(資金提供)等する団体が行う社会貢献事業)

#### 注3 創業支援等措置

注2の就業確保に係る措置のうち、④業務委託契約を締結する制度の導入及び⑤社会貢献事業に従事できる制度の導入という雇用以外の措置を創業支援等措置という。

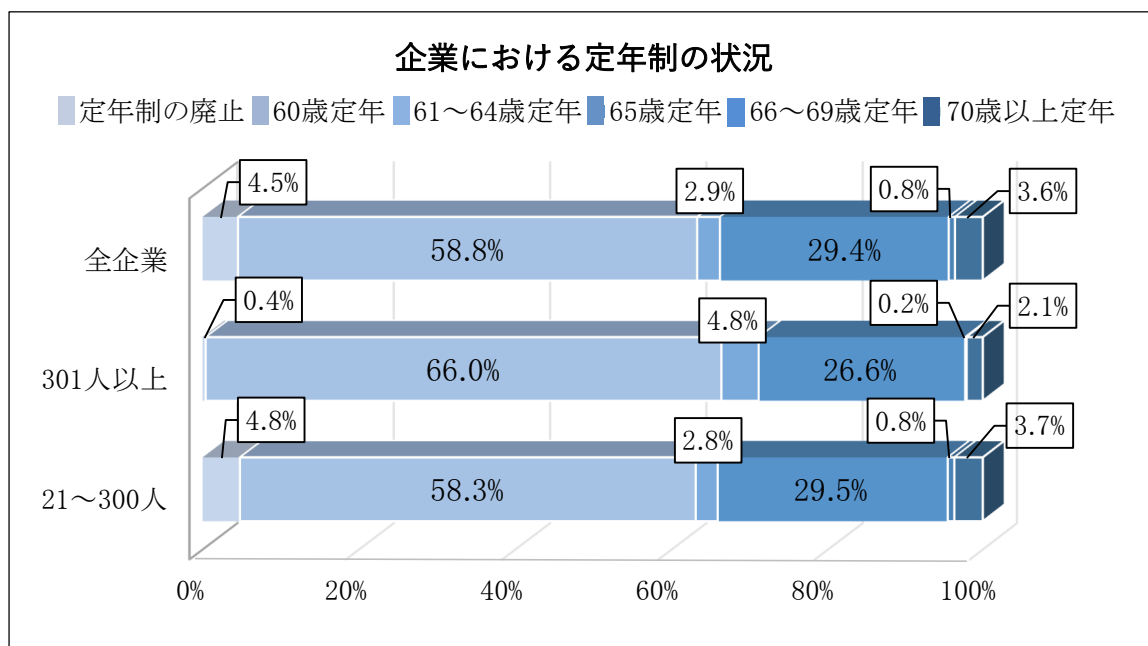


### 3 企業における定年制の状況（11ページ表5）

報告した企業全体の定年制の状況について、定年年齢別に見ると次のとおりであった。

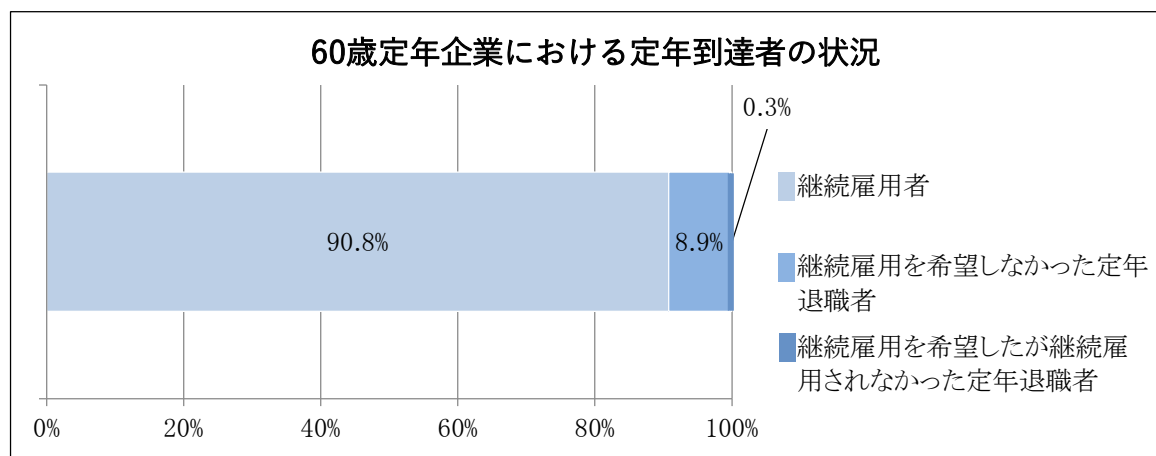
- ・ 定年制を廃止している企業 392社 4.5% [0.3ポイント増加]
- ・ 定年を60歳とする企業 5,068社 58.8% [2.2ポイント減少]
- ・ 定年を61～64歳とする企業 251社 2.9% [変動なし]
- ・ 定年を65歳とする企業 2,534社 29.4% [1.7ポイント増加]
- ・ 定年を66～69歳とする企業 70社 0.8% [0.1ポイント増加]
- ・ 定年を70歳以上とする企業 311社 3.6% [0.1ポイント増加]
- ・ 定年を60歳未満とする企業※ 0社 0.0% [変動なし]

※定年年齢を60歳未満とする場合は、高齢者雇用安定法第8条に違反することとなる。



(参考) 60歳定年企業における定年到達者等の状況 (12ページ表7)

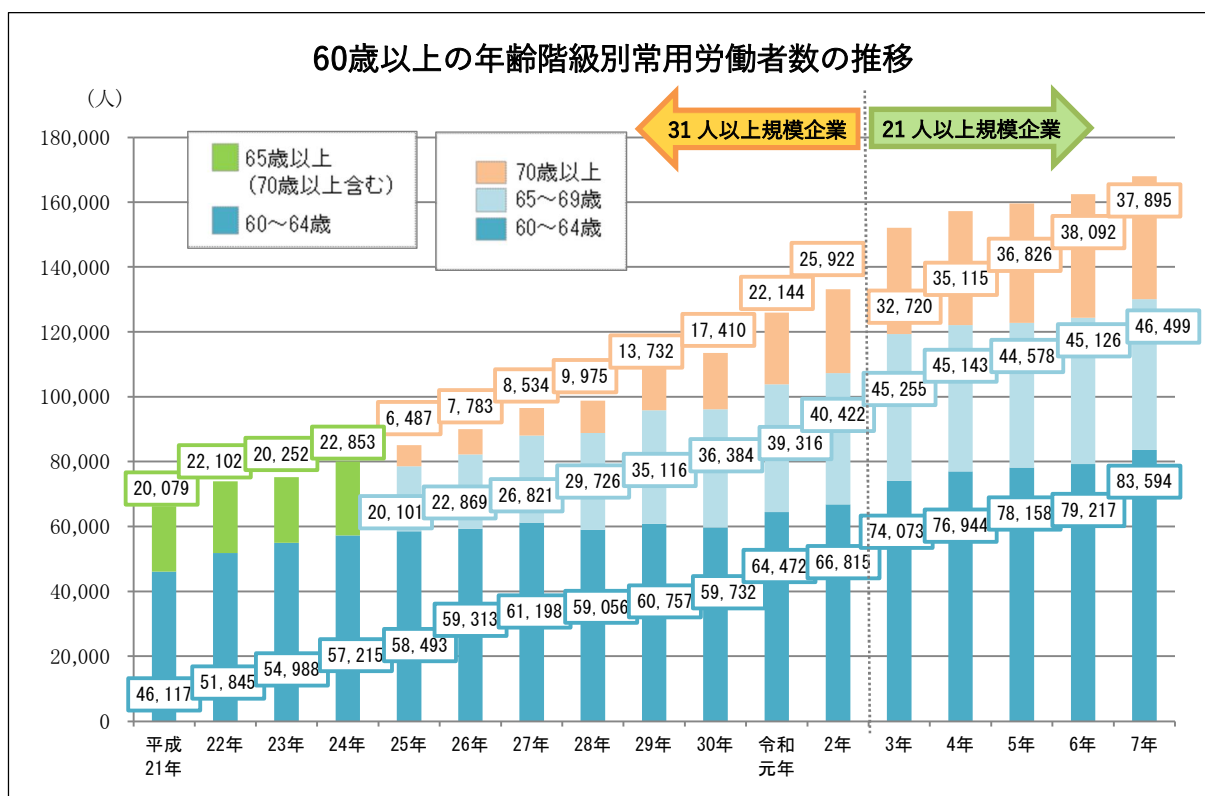
60歳定年企業において、過去1年間(令和6年6月1日から令和7年5月31日)に定年年齢に到達した者(12,086人)のうち、継続雇用された者は90.8% [0.2ポイント増加](うち子会社等・関連会社等での継続雇用者は1.0% [0.1ポイント増加])、継続雇用を希望しなかった定年退職者は8.9% [0.5ポイント減少]、継続雇用を希望したが継続雇用されなかった定年退職者は0.3% [0.2ポイント増加]であった。



#### 4 高年齢常用労働者の状況 (13 ページ表 8)

##### (1) 年齢階級別の常用労働者数について

報告した企業全体における常用労働者数(1,014,895人)のうち、60歳以上の常用労働者数は167,988人で16.6% [0.3ポイント増加]を占めている。年齢階級別に見ると、60～64歳が83,594人で8.2% [0.3ポイント増加]、65～69歳が46,499人で4.6% [0.1ポイント増加]、70歳以上が37,895人で3.7% [0.1ポイント減少]であった。



(2) 企業規模別の常用労働者数について

31人以上規模企業における60歳以上の常用労働者数は156,728人で、平成21年と比較すると、90,532人増加している。(平成21年を100とした場合の比率は236.8)

また、21人以上企業規模における60歳以上の常用労働者数は167,988人で、令和3年と比較すると、15,940人増加している。(令和3年を100とした場合の比率は110.5)

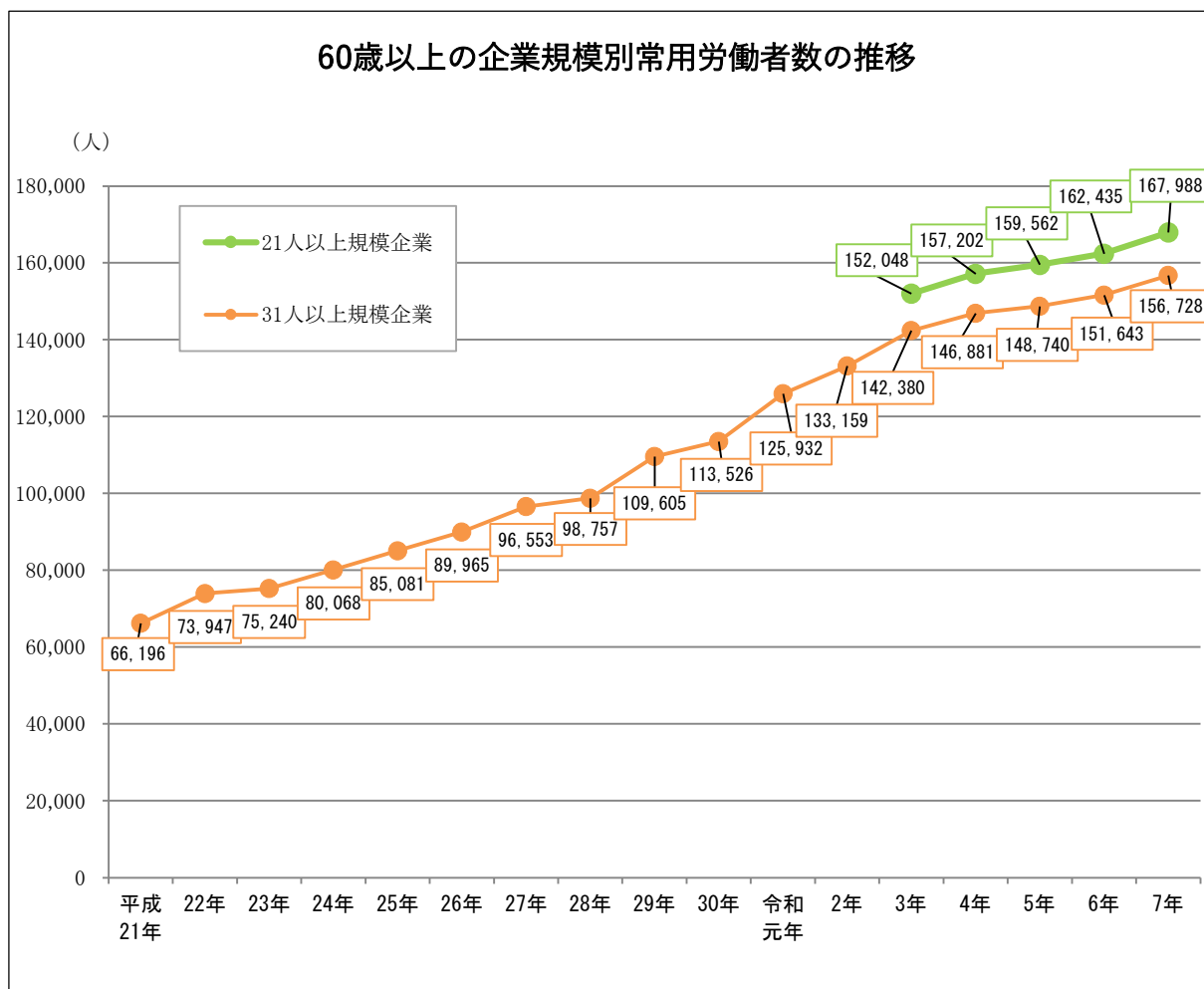


表1 雇用確保措置の実施状況

(社、%)

	①実施済み		②未実施		合計(①+②)	
21人以上 総計	8,625	(8,518)	1	(5)	8,626	(8,523)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
31人以上 総計	6,442	(6,334)	1	(2)	6,443	(6,336)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
21～300人	8,143	(8,055)	1	(5)	8,144	(8,060)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
21～30人	2,183	(2,184)	0	(3)	2,183	(2,187)
	100.0%	(99.9%)	0.0%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
31～300人	5,960	(5,871)	1	(2)	5,961	(5,873)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
301人以上	482	(463)	0	(0)	482	(463)
	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	100.0%	(100.0%)

※ ( )内は、令和6年6月1日現在の数値。以下、各表において同様。

※ 本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳の積み上げが合計と一致しない場合がある。以下、各表において同様。

※ 本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、本表の①について、小数点第2位以下を四捨五入することで100%となる場合は、小数点第2位以下を切り捨てとし、②について、小数点第2位以下を四捨五入することで0%となる場合は、小数点第2位以下を切り上げとしている。

表2 雇用確保措置の規模別・産業別実施状況

(%)

		①実施済企業割合		②未実施企業割合	
規模別	合 計	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)
	21～30人	100.0%	(99.9%)	0.0%	(0.1%)
	31～50人	100.0%	(99.9%)	0.0%	(0.1%)
	51～100人	100.0%	(99.9%)	0.0%	(0.1%)
	101～300人	99.9%	(100.0%)	0.1%	(0.0%)
	301～500人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	501～1,000人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	1,001人以上	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
産業別		21人以上	31人以上	21人以上	31人以上
	合 計	99.9% (99.9%)	99.9% (99.9%)	0.1% (0.1%)	0.1% (0.1%)
	農、林、漁業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	鉱業、採石業、砂利採取業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	建設業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	製造業	100.0% (99.9%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.1%)	0.0% (0.0%)
	電気・ガス・熱供給・水道業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	情報通信業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	運輸、郵便業	99.9% (100.0%)	99.9% (100.0%)	0.1% (0.0%)	0.1% (0.0%)
	卸売業、小売業	100.0% (99.8%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.2%)	0.0% (0.0%)
	金融業、保険業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	不動産業、物品賃貸業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	学術研究、専門・技術サービス業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	宿泊業、飲食サービス業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	生活関連サービス業、娯楽業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	教育、学習支援業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	医療、福祉	100.0% (99.9%)	100.0% (99.9%)	0.0% (0.1%)	0.0% (0.1%)
	複合サービス事業	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)
	サービス業(他に分類されないもの)	100.0% (99.9%)	100.0% (99.8%)	0.0% (0.1%)	0.0% (0.2%)
	その他	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)

※ 本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、本表の①について、小数点第2位以下を四捨五入することで100%となる場合は、小数点第2位以下を切り捨てとし、②について、小数点第2位以下を四捨五入することで0%となる場合は、小数点第2位以下を切り上げとしている。

※ 産業別「その他」は該当企業なし。

表3-1 雇用確保措置実施済企業における措置内容の内訳

(社、%)

	①定年制の廃止	②定年の引上げ	③継続雇用制度の導入	合計(①+②+③)
21人以上総計	392 (362)	2,915 (2,717)	5,318 (5,439)	8,625 (8,518)
	4.5% (4.2%)	33.8% (31.9%)	61.7% (63.9%)	100.0% (100.0%)
31人以上総計	225 (201)	2,132 (1,972)	4,085 (4,161)	6,442 (6,334)
	3.5% (3.2%)	33.1% (31.1%)	63.4% (65.7%)	100.0% (100.0%)
21～300人	390 (360)	2,776 (2,586)	4,977 (5,109)	8,143 (8,055)
	4.8% (4.5%)	34.1% (32.1%)	61.1% (63.4%)	100.0% (100.0%)
21～30人	167 (161)	783 (745)	1,233 (1,278)	2,183 (2,184)
	7.7% (7.4%)	35.9% (34.1%)	56.5% (58.5%)	100.0% (100.0%)
31～300人	223 (199)	1,993 (1,841)	3,744 (3,831)	5,960 (5,871)
	3.7% (3.4%)	33.4% (31.4%)	62.8% (65.3%)	100.0% (100.0%)
301人以上	2 (2)	139 (131)	341 (330)	482 (463)
	0.4% (0.4%)	28.8% (28.3%)	70.7% (71.3%)	100.0% (100.0%)

※「合計」の企業数は、表1の「①実施済み」に対応している。

※「②定年の引上げ」は、定年年齢を65歳以上としている企業を、「③継続雇用制度の導入」は、定年年齢は65歳未満だが継続雇用制度の上限年齢を65歳以上としている企業を、それぞれ計上している。

表3-2 雇用確保措置における継続雇用先の内訳

(社、%)

	① 自社のみ	自社以外の継続雇用先がある企業							合計 (①～⑦)
		② 自社、 子会社等	③ 自社、 関連会社等	④ 自社、 子会社等、 関連会社等	⑤ 子会社等	⑥ 子会社等、 関連会社等	⑦ 関連会社等	小計 (②～⑦)	
21人以上 総計	5,060 (5,178)	133 (142)	49 (50)	56 (59)	17 (9)	1 (0)	2 (1)	258 (261)	5,318 (5,439)
	95.1% (95.2%)	2.5% (2.6%)	0.9% (0.9%)	1.1% (1.1%)	0.3% (0.2%)	0.1% (0.0%)	0.1% (0.1%)	4.9% (4.8%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	3,869 (3,939)	113 (125)	40 (34)	45 (53)	15 (9)	1 (0)	2 (1)	216 (222)	4,085 (4,161)
	94.7% (94.7%)	2.8% (3.0%)	1.0% (0.8%)	1.1% (1.3%)	0.4% (0.2%)	0.1% (0.0%)	0.1% (0.1%)	5.3% (5.3%)	100.0% (100.0%)
21～300人	4,768 (4,897)	102 (111)	42 (45)	46 (46)	16 (9)	1 (0)	2 (1)	209 (212)	4,977 (5,109)
	95.8% (95.9%)	2.0% (2.2%)	0.8% (0.9%)	0.9% (0.9%)	0.3% (0.2%)	0.1% (0.0%)	0.1% (0.1%)	4.2% (4.1%)	100.0% (100.0%)
21～30人	1,191 (1,239)	20 (17)	9 (16)	11 (6)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	42 (39)	1,233 (1,278)
	96.6% (96.9%)	1.6% (1.3%)	0.7% (1.3%)	0.9% (0.5%)	0.2% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	3.4% (3.1%)	100.0% (100.0%)
31～300人	3,577 (3,658)	82 (94)	33 (29)	35 (40)	14 (9)	1 (0)	2 (1)	167 (173)	3,744 (3,831)
	95.5% (95.5%)	2.2% (2.5%)	0.9% (0.8%)	0.9% (1.0%)	0.4% (0.2%)	0.1% (0.0%)	0.1% (0.1%)	4.5% (4.5%)	100.0% (100.0%)
301人以上	292 (281)	31 (31)	7 (5)	10 (13)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	49 (49)	341 (330)
	85.6% (85.2%)	9.1% (9.4%)	2.1% (1.5%)	2.9% (3.9%)	0.3% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	14.4% (14.8%)	100.0% (100.0%)

※「合計」の企業数は、表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

※ 本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、本表の⑥⑦について、小数点第2位以下を四捨五入することで0%となる場合は、小数点第2位以下を切り上げとしている。

表4-1 70歳までの就業確保措置の実施状況

(社、%)

	①70歳までの就業確保措置実施済み						②未実施	合計 (①+②)
		定年制の廃止	定年の引上げ	継続雇用制度 の導入	創業支援等措置の 導入			
21人以上総計	3,357 (3,124)	392 (362)	311 (296)	2,650 (2,461)	4 (5)	5,269 (5,399)	8,626 (8,523)	
	38.9% (36.7%)	4.5% (4.2%)	3.6% (3.5%)	30.7% (28.9%)	0.1% (0.1%)	61.1% (63.3%)	100.0% (100.0%)	
	31人以上総計	2,461 (2,240)	225 (201)	207 (203)	2,025 (1,833)	4 (3)	3,982 (4,096)	6,443 (6,336)
		38.2% (35.4%)	3.5% (3.2%)	3.2% (3.2%)	31.4% (28.9%)	0.1% (0.1%)	61.8% (64.6%)	100.0% (100.0%)
21～300人	3,173 (2,952)	390 (360)	301 (289)	2,478 (2,298)	4 (5)	4,971 (5,108)	8,144 (8,060)	
	39.0% (36.6%)	4.8% (4.5%)	3.7% (3.6%)	30.4% (28.5%)	0.1% (0.1%)	61.0% (63.4%)	100.0% (100.0%)	
	21～30人	896 (884)	167 (161)	104 (93)	625 (628)	0 (2)	1,287 (1,303)	2,183 (2,187)
		41.0% (40.4%)	7.7% (7.4%)	4.8% (4.3%)	28.6% (28.7%)	0.0% (0.1%)	59.0% (59.6%)	100.0% (100.0%)
	31～300人	2,277 (2,068)	223 (199)	197 (196)	1,853 (1,670)	4 (3)	3,684 (3,805)	5,961 (5,873)
		38.2% (35.2%)	3.7% (3.4%)	3.3% (3.3%)	31.1% (28.4%)	0.1% (0.1%)	61.8% (64.8%)	100.0% (100.0%)
301人以上	184 (172)	2 (2)	10 (7)	172 (163)	0 (0)	298 (291)	482 (463)	
	38.2% (37.1%)	0.4% (0.4%)	2.1% (1.5%)	35.7% (35.2%)	0.0% (0.0%)	61.8% (62.9%)	100.0% (100.0%)	

※「①70歳までの就業確保措置実施済み」のうち、「定年の引上げ」は70歳以上の定年の定めを設けている企業を、「継続雇用制度の導入」は定年年齢は70歳未満だが継続雇用制度の上限年齢を70歳以上としている企業を、「創業支援等措置の導入」は定年年齢及び継続雇用制度の上限年齢は70歳未満だが創業支援等措置の上限年齢を70歳以上としている企業を、それぞれ計上している。

※本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、本表の①について、小数点第2位以下を四捨五入することで0%となる場合は、小数点第2位以下を切り上げとしている。

※「合計」の企業数は、表1の「合計」に対応している。

表4-2 70歳までの就業確保措置の規模別・産業別実施状況

(%)

		①実施済企業割合		②未実施企業割合	
規模別	合 計	38.9%	(36.7%)	61.1%	(63.3%)
	21～30人	41.0%	(40.4%)	59.0%	(59.6%)
	31～50人	40.2%	(36.4%)	59.8%	(63.6%)
	51～100人	37.7%	(35.1%)	62.3%	(64.9%)
	101～300人	35.3%	(33.4%)	64.7%	(66.6%)
	301～500人	37.7%	(34.5%)	62.3%	(65.5%)
	501～1,000人	37.7%	(38.8%)	62.3%	(61.2%)
	1,001人以上	40.0%	(39.6%)	60.0%	(60.4%)
産業別		21人以上	31人以上	21人以上	31人以上
	合 計	38.9% (36.7%)	38.2% (35.4%)	61.1% (63.3%)	61.8% (64.6%)
	農、林、漁業	60.0% (50.0%)	60.9% (47.4%)	40.0% (50.0%)	39.1% (52.6%)
	鉱業、採石業、砂利採取業	25.0% (25.0%)	0.0% (0.0%)	75.0% (75.0%)	100.0% (100.0%)
	建設業	48.7% (46.4%)	46.9% (42.5%)	51.3% (53.6%)	53.1% (57.5%)
	製造業	33.3% (30.4%)	31.8% (27.9%)	66.7% (69.6%)	68.2% (72.1%)
	電気・ガス・熱供給・水道業	27.8% (25.0%)	41.7% (23.1%)	72.2% (75.0%)	58.3% (76.9%)
	情報通信業	23.8% (24.0%)	27.6% (28.4%)	76.2% (76.0%)	72.4% (71.6%)
	運輸、郵便業	45.5% (45.8%)	44.9% (44.4%)	54.5% (54.2%)	55.1% (55.6%)
	卸売業、小売業	30.8% (28.6%)	29.3% (27.7%)	69.2% (71.4%)	70.7% (72.3%)
	金融業、保険業	31.0% (27.8%)	33.3% (25.9%)	69.0% (72.2%)	66.7% (74.1%)
	不動産業、物品賃貸業	34.4% (34.4%)	37.1% (37.0%)	65.6% (65.6%)	62.9% (63.0%)
	学術研究、専門・技術サービス業	37.9% (39.0%)	36.8% (36.2%)	62.1% (61.0%)	63.2% (63.8%)
	宿泊業、飲食サービス業	47.0% (41.9%)	45.5% (40.7%)	53.0% (58.1%)	54.5% (59.3%)
	生活関連サービス業、娯楽業	33.6% (30.5%)	32.8% (32.0%)	66.4% (69.5%)	67.2% (68.0%)
	教育、学習支援業	34.5% (31.3%)	34.4% (30.0%)	65.5% (68.7%)	65.6% (70.0%)
	医療、福祉	44.0% (40.9%)	45.2% (42.0%)	56.0% (59.1%)	54.8% (58.0%)
	複合サービス事業	37.0% (31.0%)	37.5% (30.8%)	63.0% (69.0%)	62.5% (69.2%)
	サービス業(他に分類されないもの)	39.7% (37.9%)	38.1% (36.2%)	60.3% (62.1%)	61.9% (63.8%)
	その他	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)

※産業別「その他」は該当企業なし。

表5 企業における定年制の状況

(社、%)

	① 定年制の廃止	定年制あり						65歳以上定年小計 ※定年制の廃止を含む (①+⑤+⑥+⑦)	合計(①～⑦)
		② 60歳未満	③ 60歳	④ 61～64歳	⑤ 65歳	⑥ 66～69歳	⑦ 70歳以上		
21人以上 総計	392 (362)	0 (0)	5,068 (5,195)	251 (249)	2,534 (2,359)	70 (62)	311 (296)	3,307 (3,079)	8,626 (8,523)
	4.5% (4.2%)	0.0% (0.0%)	58.8% (61.0%)	2.9% (2.9%)	29.4% (27.7%)	0.8% (0.7%)	3.6% (3.5%)	38.3% (36.1%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	225 (201)	0 (0)	3,873 (3,959)	213 (204)	1,883 (1,728)	42 (41)	207 (203)	2,357 (2,173)	6,443 (6,336)
	3.5% (3.2%)	0.0% (0.0%)	60.1% (62.5%)	3.3% (3.2%)	29.2% (27.3%)	0.7% (0.6%)	3.2% (3.2%)	36.6% (34.3%)	100.0% (100.0%)
21～300人	390 (360)	0 (0)	4,750 (4,887)	228 (227)	2,406 (2,236)	69 (61)	301 (289)	3,166 (2,946)	8,144 (8,060)
	4.8% (4.5%)	0.0% (0.0%)	58.3% (60.6%)	2.8% (2.8%)	29.5% (27.7%)	0.8% (0.8%)	3.7% (3.6%)	38.9% (36.6%)	100.0% (100.0%)
21～30人	167 (161)	0 (0)	1,195 (1,236)	38 (45)	651 (631)	28 (21)	104 (93)	950 (906)	2,183 (2,187)
	7.7% (7.4%)	0.0% (0.0%)	54.7% (56.5%)	1.7% (2.1%)	29.8% (28.9%)	1.3% (1.0%)	4.8% (4.3%)	43.5% (41.4%)	100.0% (100.0%)
31～300人	223 (199)	0 (0)	3,555 (3,651)	190 (182)	1,755 (1,605)	41 (40)	197 (196)	2,216 (2,040)	5,961 (5,873)
	3.7% (3.4%)	0.0% (0.0%)	59.6% (62.2%)	3.2% (3.1%)	29.4% (27.3%)	0.7% (0.7%)	3.3% (3.3%)	37.2% (34.7%)	100.0% (100.0%)
301人以上	2 (2)	0 (0)	318 (308)	23 (22)	128 (123)	1 (1)	10 (7)	141 (133)	482 (463)
	0.4% (0.4%)	0.0% (0.0%)	66.0% (66.5%)	4.8% (4.8%)	26.6% (26.6%)	0.2% (0.2%)	2.1% (1.5%)	29.3% (28.7%)	100.0% (100.0%)

※「65歳以上定年小計」の企業数は、表3－1の「①定年制の廃止」と「②定年の引上げ」を合計した数値に対応している。

※「合計」の企業数は、表1の「合計」に対応している。

表6 経過措置適用企業における令和6年6月1日から令和7年3月31日までの基準適用年齢到達者の状況

	企業数 (社)	基準を適用できる 年齢に到達した者の 総数 (人)	基準適用状況					
			継続雇用終了者数 (継続雇用の更新を 希望しなかった者)		継続雇用者数 (基準に該当し 引き続き継続雇用された者)		継続雇用終了者数 (継続雇用を希望したが 基準に該当しなかった者)	
経過措置適用企業で 基準適用年齢到達者(64歳)がいた企業	110	478	43	9.0% (5.5%)	425	88.9% (93.7%)	10	2.1% (0.7%)
うち女性	52	148	11	7.4% (4.4%)	133	89.9% (95.3%)	4	2.7% (0.3%)

※ 本集計は、令和6年6月1日から令和7年3月31日までに経過措置を適用していた企業において基準適用年齢(64歳)に到達した者について集計している。

表 7 60歳定年企業における定年到達者等の状況

	企業数 (社)	定年到達者 総数 (人)	定年退職者数 (継続雇用を 希望しなかった者)		継続雇用者数		うち子会社等・関連会社等 での継続雇用者数		定年退職者数 (継続雇用を希望したが 継続雇用されなかった者)		継続雇用の 終了による 離職者数 (人)
60歳定年企業で 定年到達者がいる企業等	3,016	12,086	1,072	8.9% (9.4%)	10,977	90.8% (90.6%)	122	1.0% (0.9%)	37	0.3% (0.1%)	1,516
うち女性	1,609	4,582	297	6.5% (7.6%)	4,280	93.4% (92.4%)	19	0.4% (0.1%)	5	0.1% (0.1%)	528

※ 本集計は、過去1年間(令和6年6月1日から令和7年5月31日まで)に60歳定年企業において定年年齢に到達した者及び継続雇用制度における上限年齢に到達したことによる離職者の数について集計している。

表 8 年齢階級別常用労働者数の推移

		全年齢の総数		60歳以上の総数		60～64歳		65歳以上		うち65～69歳		うち70歳以上	
31人以上 規模企業	平成21年	678,260人	(100.0)	66,196人	(100.0)	46,117人	(100.0)	20,079人	(100.0)	－	－	－	－
	平成22年	734,725人	(108.3)	73,947人	(111.7)	51,845人	(112.4)	22,102人	(110.1)	－	－	－	－
	平成23年	725,308人	(106.9)	75,240人	(113.7)	54,988人	(119.2)	20,252人	(100.9)	－	－	－	－
	平成24年	748,174人	(110.3)	80,068人	(121.0)	57,215人	(124.1)	22,853人	(113.8)	－	－	－	－
	平成25年	783,513人	(115.5)	85,081人	(128.5)	58,493人	(126.8)	26,588人	(132.4)	20,101人	(100.0)	6,487人	(100.0)
	平成26年	809,569人	(119.4)	89,965人	(135.9)	59,313人	(128.6)	30,652人	(152.7)	22,869人	(113.8)	7,783人	(120.0)
	平成27年	808,341人	(119.2)	96,553人	(145.9)	61,198人	(132.7)	35,355人	(176.1)	26,821人	(133.4)	8,534人	(131.6)
	平成28年	826,549人	(121.9)	98,757人	(149.2)	59,056人	(128.1)	39,701人	(197.7)	29,726人	(147.9)	9,975人	(153.8)
	平成29年	848,333人	(125.1)	109,605人	(165.6)	60,757人	(131.7)	48,848人	(243.3)	35,116人	(174.7)	13,732人	(211.7)
	平成30年	842,251人	(124.2)	113,526人	(171.5)	59,732人	(129.5)	53,794人	(267.9)	36,384人	(181.0)	17,410人	(268.4)
	令和元年	892,465人	(131.6)	125,932人	(190.2)	64,472人	(139.8)	61,460人	(306.1)	39,316人	(195.6)	22,144人	(341.4)
	令和2年	916,256人	(135.1)	133,159人	(201.2)	66,815人	(144.9)	66,344人	(330.4)	40,422人	(201.1)	25,922人	(399.6)
	令和3年	953,121人	(140.5)	142,380人	(215.1)	70,019人	(151.8)	72,361人	(360.4)	42,232人	(210.1)	30,129人	(464.5)
	令和4年	960,512人	(141.6)	146,881人	(221.9)	72,591人	(157.4)	74,290人	(370.0)	42,099人	(209.4)	32,191人	(496.2)
	令和5年	950,232人	(140.1)	148,740人	(224.7)	73,550人	(159.5)	75,190人	(374.5)	41,539人	(206.7)	33,651人	(518.7)
	令和6年	940,972人	(138.7)	151,643人	(229.1)	74,628人	(161.8)	77,015人	(383.6)	42,048人	(209.2)	34,967人	(539.0)
	令和7年	959,196人	(141.4)	156,728人	(236.8)	78,684人	(170.6)	78,044人	(388.7)	43,355人	(215.7)	34,689人	(534.7)
21人以上 規模企業	令和3年	1,006,993人	(100.0)	152,048人	(100.0)	74,073人	(100.0)	77,975人	(100.0)	45,255人	(100.0)	32,720人	(100.0)
	令和4年	1,017,439人	(101.0)	157,202人	(103.4)	76,944人	(103.9)	80,258人	(102.9)	45,143人	(99.8)	35,115人	(107.3)
	令和5年	1,008,046人	(100.1)	159,562人	(104.9)	78,158人	(105.5)	81,404人	(104.4)	44,578人	(98.5)	36,826人	(112.5)
	令和6年	996,582人	(99.0)	162,435人	(106.8)	79,217人	(106.9)	83,218人	(106.7)	45,126人	(99.7)	38,092人	(116.4)
	令和7年	1,014,895人	(100.8)	167,988人	(110.5)	83,594人	(112.9)	84,394人	(108.2)	46,499人	(102.7)	37,895人	(115.8)

※ 本表は、報告した全ての企業の常用労働者数について、年齢階級別・企業規模別に集計したもの。

※ 「31人以上規模企業」の( )内は、平成21年を100とした場合の比率(「うち65～69歳」「うち70歳以上」は平成25年を100とした場合の比率)。

※ 「21人以上規模企業」の( )内は、令和3年を100とした場合の比率。

表9 都道府県別の状況

(社、%)

	報告した 全ての企業		雇用確保措置 実施済企業割合		70歳までの 就業確保措置 実施済企業割合	
北海道	9,403 社	(9,329 社)	99.9%	(99.9%)	41.6%	(38.9%)
青森	2,449 社	(2,533 社)	99.8%	(100.0%)	44.8%	(41.2%)
岩手	2,436 社	(2,482 社)	99.8%	(100.0%)	45.0%	(42.2%)
宮城	3,793 社	(3,748 社)	99.5%	(99.9%)	40.8%	(38.4%)
秋田	1,970 社	(2,024 社)	100.0%	(100.0%)	39.7%	(34.9%)
山形	2,226 社	(2,277 社)	100.0%	(100.0%)	40.4%	(36.2%)
福島	3,562 社	(3,599 社)	99.8%	(99.9%)	41.4%	(37.3%)
茨城	4,150 社	(4,258 社)	99.9%	(99.9%)	41.3%	(37.6%)
栃木	3,398 社	(3,389 社)	99.9%	(99.9%)	39.8%	(35.2%)
群馬	4,043 社	(4,072 社)	100.0%	(100.0%)	35.7%	(34.0%)
埼玉	8,626 社	(8,523 社)	99.9%	(99.9%)	38.9%	(36.7%)
千葉	7,046 社	(6,922 社)	100.0%	(99.9%)	41.6%	(38.5%)
東京	42,325 社	(41,365 社)	99.9%	(99.9%)	27.8%	(25.2%)
神奈川	11,258 社	(11,145 社)	99.9%	(99.9%)	32.2%	(29.9%)
新潟	4,490 社	(4,568 社)	99.8%	(100.0%)	31.0%	(28.1%)
富山	2,434 社	(2,453 社)	100.0%	(100.0%)	29.4%	(26.0%)
石川	2,538 社	(2,556 社)	99.8%	(99.9%)	34.1%	(31.7%)
福井	1,877 社	(1,851 社)	99.9%	(100.0%)	39.0%	(34.3%)
山梨	1,552 社	(1,541 社)	99.8%	(99.7%)	32.5%	(30.0%)
長野	4,107 社	(4,010 社)	99.9%	(99.9%)	39.4%	(36.2%)
岐阜	4,022 社	(4,037 社)	100.0%	(100.0%)	38.8%	(35.9%)
静岡	7,016 社	(7,113 社)	99.8%	(99.8%)	34.9%	(32.6%)
愛知	14,324 社	(14,164 社)	100.0%	(100.0%)	35.5%	(32.6%)
三重	3,121 社	(3,150 社)	100.0%	(100.0%)	39.4%	(36.0%)
滋賀	2,203 社	(2,205 社)	99.6%	(99.9%)	35.0%	(31.9%)
京都	4,525 社	(4,530 社)	99.8%	(99.9%)	29.4%	(26.3%)
大阪	18,836 社	(18,753 社)	99.9%	(99.9%)	30.7%	(28.1%)
兵庫	8,051 社	(7,993 社)	99.8%	(99.8%)	31.1%	(28.8%)
奈良	1,625 社	(1,623 社)	100.0%	(100.0%)	36.9%	(36.9%)
和歌山	1,604 社	(1,644 社)	100.0%	(99.7%)	34.1%	(31.4%)
鳥取	1,105 社	(1,124 社)	100.0%	(99.8%)	34.7%	(30.6%)
島根	1,401 社	(1,414 社)	99.8%	(99.9%)	47.0%	(44.6%)
岡山	3,617 社	(3,581 社)	99.9%	(99.9%)	38.2%	(34.2%)
広島	5,370 社	(5,468 社)	99.5%	(99.9%)	32.2%	(29.1%)
山口	2,424 社	(2,432 社)	99.9%	(100.0%)	35.9%	(32.2%)
徳島	1,217 社	(1,246 社)	100.0%	(100.0%)	38.9%	(35.6%)
香川	2,028 社	(2,081 社)	99.9%	(100.0%)	40.6%	(37.6%)
愛媛	2,642 社	(2,653 社)	99.6%	(99.9%)	36.8%	(32.9%)
高知	1,370 社	(1,377 社)	99.5%	(100.0%)	34.8%	(31.5%)
福岡	9,573 社	(9,611 社)	99.9%	(99.9%)	35.4%	(32.5%)
佐賀	1,682 社	(1,694 社)	99.3%	(99.9%)	40.8%	(39.0%)
長崎	2,566 社	(2,604 社)	99.4%	(99.8%)	32.6%	(28.3%)
熊本	3,336 社	(3,331 社)	99.4%	(99.9%)	34.8%	(31.0%)
大分	2,229 社	(2,259 社)	100.0%	(100.0%)	45.7%	(41.8%)
宮崎	2,209 社	(2,240 社)	99.9%	(99.9%)	39.0%	(35.3%)
鹿児島	3,022 社	(3,108 社)	99.8%	(99.9%)	44.3%	(39.9%)
沖縄	2,938 社	(2,972 社)	99.5%	(99.7%)	33.8%	(29.2%)
全国計	237,739 社	(237,052 社)	99.9%	(99.9%)	34.8%	(31.9%)

※ 本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、本表の「雇用確保措置実施済企業割合」については、小数点第2位以下を四捨五入することで100%となる場合は、小数点第2位以下を切り捨てとしている。

※ 「雇用確保措置実施済企業割合」は表1の①に、「70歳までの就業確保措置実施済企業割合」は表4-1の①に、それぞれ対応している。